

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 38号

2013/03/04 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、市況の動き：先週と変わらずだが、金曜日に下落傾向、来週はついに£1300台か？

①週最高：LDN市場£1,434 / NY市場\$2,143（共に2月25日） 先週比 **LDN+£0/NY+4**  
②週最低：LDN市場£1,406 / NY市場\$2,082（共に3月1日） 先週比 **LDN-£2/NY-\$31**  
週内差額（①-②）：LDN市場£26 / NY市場\$26

【2月25日（月）】両市場とも小幅続伸。

ロンドン、ニューヨーク両市場とも小幅続伸した。市場は、西アフリカのミッドクロップ（4～9月）の見通しを注視している。

農家やアナリストらは先週、コートジボワールの主要産地のほとんどで厳しい乾期が豆の品質に悪影響を与えつつあり、ミッドクロップの収穫の始まりが遅れる恐れがあると指摘した。ニューヨーク市場の5月きりは4ドル（0.2%）高の**2143ドル**、ロンドン市場の5月きりは9ポンド（0.6%）高の**1434ポンド**でそれぞれ引けた。

【2月26日（火）】両市場とも反落

ロンドン、ニューヨーク両市場ともに反落した。最大生産国コートジボワールのミッドクロップの見直し改善などが背景。

ニューヨーク市場の5月きりは18ドル（0.8%）安の2125ドルで引けた。ディーラーらによると、最近のココア相場の上伸は、短期のテクニカルな調整にすぎない。また、先週付けた2012年6月以来の安値である2102ドルを再度付ける可能性があるという。ロンドン市場の5月きりは16ポンド（1.1%）安の1427ポンドで終了した。

【2月27日（水）】NYは反発、ロンドンは続落。

ニューヨーク市場は反発、5月きりは6ドル高の2131ドルで引けた。

一方、ロンドン市場は小幅続落。5月きりは1ポンド安の1426ポンドで終了した。ラボバンクのアナリスト、キース・フラーリー氏は、「乾燥天候に懸念があったが、来週は一部で降雨が予想されており、そうした潜在的な下支え要因はなくなった」と指摘した。

【2月28日（木）】両市場とも小幅高。

ニューヨーク市場は続伸し、5月きりは4ドル（0.2%）高の2135ドルで引けた。

ロンドン市場は反発し、5月きりは3ポンド（0.2%）高の1429ポンドで終了した。上昇したものの、産地筋の売りが控えており、上値は重い。ABNアムロ・マーケットのココア取引責任者、ジャスティン・グランディソン氏は「産地筋は想定する水準に相場が上がらないため、売りを出すことができないようだ。業者筋も買いを急いでいない」と指摘した。

【3月1日（金）】 NY, ロンドンともに軟調

ニューヨーク市場のココア先物は、3日ぶり反落。供給拡大観測に加え、世界的に根強い景気懸念に圧迫された。

ニューヨーク市場の5月きりは、53ドル（2.5%）安の**2082ドル**で引けた。下落率は、1月22日以来、約1カ月ぶりの大きさを記録。一時は、2012年6月以来の安値の2075ドルまで下落した。

ロンドン市場の5月きりも反落し、23ポンド（1.6%）安の**1406ポンド**と、前週に付けた10カ月ぶり安値の1403ポンドを小幅に上回る水準で引けた。

## 2、インドネシア・スラウェシ島からのカカオ輸出前年対比2%減少(3/1)

インドネシアの主要なカカオの産地であるスラウェシ島からの2月度のカカオ豆の輸出は前年の7917.7トンから2%減少し、7790.50トンとなったと発表された。

また、2月の輸出数量は1月の輸出数量よりも7%減少した。

インドネシア全体のカカオ豆の生産数量は、コートジ、ガーナに次ぐ世界第三位で2013年のカカオ生産数量は11%程度上昇し、45万トン～50万トンになると見込まれている。

《\*スラウェシ島の位置関係・・・下記オレンジの点線部分》

《\*スマトラ島ランポン州・・・下記みどりの点線部分》



出典;ウィキペディアコモンズ

《スラウェシ島からのカカオ豆の輸出数量 2012/2013》

月	輸出数量 (トン)	前年対比
February	7,790.50	-2
January	8,349.38	-6
December	7,508.11	-38
November	9,417.71	-20
October	5,734.81	-17
September	17,240.14	+133
August	4,340.00	-48
July	8,464.34	-37
June	4,935.48	-68
May	7,912.02	-53
April	7,912.02	+404
March	3,505.66	-69
February	7,917.7	-20
January	8,904.25	-23

**3、インドネシア、スマトラ島ランポン州からの2月度カカオ豆輸出は63%減少(3/1)**

インドネシア、スマトラ島のランポン州からの2月のカカオ豆輸出は前年対比63%減の254トンであったことが判明した。スマトラ島ランポン州のカカオはPanjang港から輸出されるが、この地域のカカオ豆はインドネシアの中ではマイナーな生産地区であるが、カカオ豆の品質は通常非常に発酵状態の良いカカオ豆が輸出されることで有名である。

2013年のカカオ豆の収穫数量は45万トン～50万トンと増加傾向と言われているが、カカオ豆の輸出数量については、国内のカカオ豆磨砕業者の製造キャパシティが拡大した為、2013年は前年の13万トンから10万トンへ落ちる見込みと言われている。

2012/2013 ランポン州のカカオ豆輸出数量統計

月	輸出数量 (トン)	前年対比
February	254	-63
January	609.60	-76
December	--	--
November	1,270.00	-68
October	4,493.26	+468.8

September	711.2	-21
August	558.76	-75
July	3,174.8	+18.7
June	889	-83.2
May	2,540	-27
April	762	+20
March	1,300	-76
February	691.9	-74
January	2,514.6	+52
-----		
2012 TOTAL:	18,905.52	-40
-----		

#### 4、12-13年度の世界カカオ豆市場、4万5トンの供給不足に。ICCO予測（3/1）

国際ココア機関（ICCO）は28日、2012～13年度の世界カカオ豆市場が4万5000トンの供給不足になるとの見通しを示した。前年度は8万6000トンの供給過剰。ロイター通信が1月に公表した、アナリストおよびトレーダーを対象とした調査予想では、12～13年度は10万トンの供給不足だった。

#### 5、コートジボワールのカカオ豆改革、国際価格下落で危機に（2/28）

世界最大のカカオ豆生産国コートジボワールで、農家の収益増を目指し導入された改革が行き詰まっている。国際価格の下落のため、農場出荷価格が引き下げを余儀なくされる可能性があり、政治的反動や将来の供給不安を招きかねない。

この改革は、農家の収入増と老木の植え換え投資の促進が狙い。同国は2012～13年度生産分の大半を先渡し入札で売却した。収穫前の売却により、政府は農家に固定価格を提供できる。

しかし先週、ロンドン国際金融先物取引所（LIFFE）でココア相場が10カ月ぶり安値に下落。同国政府が来年度の農場出荷価格の引き下げを余儀なくされる公算が大きくなりつつある。

欧州のトレーダーは、「現価格で売却した場合、同国は農場出荷価格の引き下げか、間接補助金の削減のいずれかを迫られる。どちらもカカオ豆生産の好材料にはならなさそうだ」と語った。

同国のコーヒー・ココア評議会（CCC）は、昨年10月1日に始まった12～13年度の政府保証付き農場出荷価格を、1キロ＝725CFAフラン（約1.5ドル）とCIF（運賃・保険料込み）輸出価格の60%に設定した。

だが、それ以来、ロンドン市場のココア相場は12%前後下落、取引通貨ポンドの下落が追い打ちをかけた。9月か10月に決まる13～14年度の農場出荷価格は引き下げ必至とみられている。一方、コートジボワールの国際商社の投資部門幹部は、「来年度の農場出荷価格は今年度より高いか、少なくとも据え置きが必要だ。さもなければ、農家は改革の利点を疑問視し始め、長期的には、カカオ豆からゴムへの乗り換えを検討するようになるだろう」と指摘した。

\*特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております！！

こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。

\*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

〈お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先〉

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545    w-ikuta@tachibana-grp.co.jp